



第5号(平成 25 年 12 月 20 日)

店舗スタッフと山岳遭難現場をつなぐ

特別隊員

島崎 三歩 の「山岳通信」

～年末年始の冬山登山について～

- ◇ 毎年、年末年始の休暇を利用して多くの登山者が来訪されています。
- ◇ 今回は9連休という大型連休となり、例年を上回る登山者が予想されます。
- ◇ 冬山シーズン（12月～3月）の遭難事故の多くがこの時期に集中します。

- ・平成 23 年 6 件（道迷い 2、転倒 1、転滑落 1、低体温症 1、その他 1）
- ・平成 24 年 7 件（雪崩 1、道迷い 1、転倒 1、転滑落 1、疲労・凍死傷 1、病気 1、その他 1）

＊ ＊ 登山者は冬山で遭難しないために、次のことに留意しましょう ＊ ＊

- ◇ 撤退を想定した用意周到な計画を立てる
- ◇ 雪崩に注意する
- ◇ 単独登山は大きなリスクが伴う
- ◇ 必要な装備品を携行
- ◇ 登山計画書は必ず作成する

*登山計画書は日本山岳ガイド協会ホームページ「コンパス」でも作成・提出できます。

<http://www.mt-compass.com/>

この通信はお客様と接する登山用品店舗スタッフの方に、長野県の山岳地域で発生した遭難の代表的な事例を随時お伝えし、「安全登山のアドバイス」のきっかけとさせていただくため、発行しています。

10月28日～12月14日まで

ケース 1

11月3日 黒姫山 55歳 女性（東京都） 下山中に道迷い
単独で入山したが道に迷い救助を要請。県防災ヘリにより
救助。

*今夏、長野県山岳総合センターが実施した調査によると、地図・コンパスを携帯していない登山者が37%も。山中では常に自分の位置を確認することは基本中の基本。

ケース 2

11月11日 横尾山（南佐久郡）69歳 男性（埼玉県）低体温状態で行動不能
単独で入山した後、道に迷い朝までビバークしたが低体温症で自力歩行不能となったところを、他の登山者に発見され、支えられて下山。南佐久郡内の病院に収容。

*単独登山での遭難が目立ちます。平成24年では遭難全体の34%が単独登山で、最も多くなっています。

ケース 3

11月14日 北アルプス霞沢岳 77歳 男性（神奈川県）行方不明
「12日に家を出たまま帰らない」と家族から届出。麓の駐車場で車両を発見し、救助隊員と県警察ヘリによる捜索を行うが、行方不明のまま。

*このケースも単独登山。単独登山は事故の重大化にもつながりやすく、死亡者の約40%（平成24年）を占めています。

ケース 4

11月11日 南アルプス仙丈ヶ岳 59歳男性（神奈川県）低体温症により死亡
単独で入山し、予定日を過ぎても下山せず行方不明となる。県警察ヘリと救助隊員で捜索を行い稜線から約100メートルの下方で発見、県警察ヘリで搬送したが、低体温症による死亡を確認。

*仙丈ヶ岳の稜線は強風で体温を奪われ知らぬ間に低体温症に陥るおそれがあります。引き返すことを含め、慎重な判断で行動しましょう。

ケース 5

11月30日 中央アルプス千畳敷 53歳 女性（埼玉県）低体温状態で行動不能
下山中に吹雪となり、体力を失い歩行困難。警察署員と遭対協救助隊員が救助して駒ヶ根市内の病院に収容。

*この時期は冬山の装備に加え、寒さに耐え抜く体力が必要となります。ります。

ケース 6

12月1日 ハヶ岳連峰 横岳 49歳 男性（東京都）アイスクライミング中に転落し負傷
アイスクライミング中に転落して負傷。県警察ヘリで救助して茅野市内の病院に収容。

*アイスクライミングは特殊な登山技術や装備が必要です。

ケース 7

12月14日ハヶ岳連峰 横岳 53歳 女性（愛知県）アイスクライミング中に転落し死亡
アイスクライミング中に転落。救助隊と地区遭対協救助隊員が救助して茅野市内の病院に収容したが、出血死による死亡を確認。

*アイスクライミングは特殊な登山技術や装備が必要です。また、クライミングは確実な支点構築が必要です。

* 本通信に関する質問・意見は kankoki@pref.nagano.lg.jp までお寄せください。

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝